



若いメンバーも多く頼もしい「よかもんを残す会」の皆さん

バリアフリー住宅を本気で考える 工務店集団

「よかもんを残す会」という、聞いただけでも意気込みが伝わってくるような名前。その名の通り、日本の伝統的な工法で造る木造住宅の良さを、「よか

もん」としてこの佐賀の地に残していこうと集まった地場22社の大工・工務店集団です。平成10年、集まったメンバー

がまず考えたのは、将来の自分たちも含めた高齢者や身障者にも住みよい家のことでした。「今まで自分たちはデザインなどを優先した、住む人にとら

て使いにくい家を作ってきたんじゃないかと思っただけです」というのは、会長の古賀敏さん。これから造る家はもちろん、今まで造った家をいかに住みやすいものにするか。バリアフリー住宅への取り組みに向けてメンバーの気持ちが高まりました。



スロープや手すりなど住む人への心配りが伝わる家



完成までに何回も使いやすさをチェック

介護資格も取って 地域に密着した家づくり

一言でバリアフリー住宅といっても、頭の中だけのデザインに終わらないようにしたい。そのためには、同じ立場にならないと使いにくい箇所も分からないだろうと、高齢者の生活を疑似体験。さらに介護する側のことも理解しておかなければ本格的な取り組みはできない、と会員企業の代表全員が介護ヘルパーの資格を取得したというから、その熱意には頭が下がります。



昇降式で車いすの人にも使いやすい洗面台

「よかもん」を残していきたいと思います。頑張っています。



「介護の研修はなかなか大変でした」と山口さん(左)と古賀さん(右)

本当に住む人の立場になった家が造れるようになったと思います」と会員の山口誠二さんにもつづり。

昨年10月には佐賀市内でバリアフリー住宅の相談会を開くなど、地域密着型の活動で

異業種の交流から始めるモノづくり



人が道具に合わせるのではなく、道具を人に合わせる大切と語る齋場さん

「バリアフリー」ということが通じない県」。これは、佐賀県バリアフリーデザイン研究会代表の齋場三十四さんが、10年前、佐賀に転任してきた頃の佐賀評でした。ところが、あるとき諸富町にデザインセンターがあることを知り、さっそくそこで出会った人たちとバリアフリーデザインの研究会を立ち上げました。



よりいいものを作るために欠かせない、納品後の検討会

全国展開できるような商品を作ろうと活動しています。

バリアフリーで 佐賀の新しいブランドづくりを

試作品は、メンバーや施設等で試用してもらい、意見や要望を聞きながら完成品に近づけていけるというのも、この研究会の大きな利点。協力施設のひとつ、特別養護老人ホーム天寿荘で間仕切り製作や家具の高さ調整を行った倉富高鋭さんは、「道具を必要とする人と対話しながらモノづくりがで



高さ調整をした椅子、テーブルでくつろぐ入所者の皆さん



プライバシー確保のための間仕切り製作



要望に応じて既存の家具の高さを調整

「佐賀県バリアフリーデザイン研究会」は、佐賀県工業技術センターが主催する研究会の一つです。



天寿荘の諸隈博子施設長(右)と西山はるのさん(左)

きる、そんな関係が持てるのが魅力です」と話します。佐賀駅バスセンターのバリアフリー化に合わせて設置された「トイレ音声案内装置」も、研究会の戸上電機製作所が製作



人が近づくと、男女のトイレ位置を音声で案内してくれます

ビジネスとして成り立つバリアフリーやユニバーサルデザインの商品で佐賀の新しい産業おこしを」と、メンバーの夢は大きく広がっています。

ピックアップ インフォメーション

しん窯
住 佐賀県佐賀市本庄5-3-30
電 0957-4332215

よかもんを残す会
住 佐賀県佐賀市本庄5-3-30
電 0957-2933333

佐賀県バリアフリーデザイン研究会
住 佐賀県諸富町大字為重石塚分52015
電 0957-4715601

SAGA MAP